



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和3年10月15日

No. 20

児童数 75名

校長 穴戸 与一

思いやり・感謝・感動

2学期はたくさんの学校行事が予定されています。学習発表会にマラソン記録会。5・6年生の思い出旅行や4年生の宿泊学習。

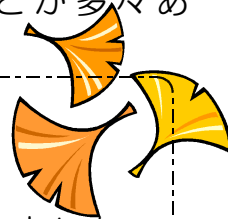
これら多くに共通していることは、グループやクラス全体で一つのものを創り上げる、成し遂げることです。もちろん、自分個人としての頑張り・努力も必要ですが、大切なことは仲間との協力です。仲間に寄り添い、励まし助け合うこと。どうしたらより良くなるか、ベストな行動や方法について一緒に悩み考え、チャレンジすること…。一人一人が仲間に対する「思いやり」の気持ちを持ち、一人一人がその気持ちに対する「感謝」の思いをもって成し遂げようとする「協力」は、最高に「強力」なパワーに変わります。そのパワーが必ずや素晴らしい結果をもたらし、仲間全員で素晴らしい「感動」を分かち合うことができるのです。ぜひ、たくさんの「感動」を、みんなで味わってほしいと願っています…。



長かった「まん延防止等重点措置」が解除され、何かほっとした感じはありますが、まだまだ今後の状況が不透明です。そんな中でも元気な様子で勉強や運動に取り組んでいる子どもたち。しかし本心は、何らかの悩みや不安、不満を抱えているかもしれません。不安な気持ちや心配事を周囲に伝えられず困っているかもしれません。少しでも不安や不満を和らげ、安心感を得られる環境を創るのも、私たち大人の重要な役割。全教職員で、子どもたちのありのままの姿を価値づけるとともに、そのよさや努力、成長を見つけていきたいと思います。

子どもたちの言動には、自分では気づいていないけど、何気なくやっている振る舞いが学級や学校全体のためになっていることが多々あります。2学期、こんなことがありました・・・。

- ♡ (なかなか進まないで)「わかんない～」とつぶやいた子どもに、周りの子ども数名が「教えてあげるよ」と声をかけていました。
- ♡ 友達の発表後、「いいねえ」と明るく言った子どもがいました。その声に笑いが起こり、明るい雰囲気になりました。
- ♡ 友達からアドバイスをもらいながらも、自力で何とか解答しようと粘り強く取り組んでいた子ども。「あっ、わかった！」の声に、隣の子どもが喜んで小さく拍手をしていました。
- ♡ すべてのスリッパを揃えてからトイレを出た子どもがいました。数日後、その子どもがまた同じようにすべてのスリッパをそろえていました。



これからも、子どもたちが自分の可能性を自覚し、将来に夢や希望をもって成長していける学校として努力していきます。どうぞ引き続きよろしくお願いします。